

準優勝

水紋 ～響き重なるコミュニティの雫～

兵庫県 | 明石工業高等専門学校 選手…3年生3名[女子3名]



建築概要

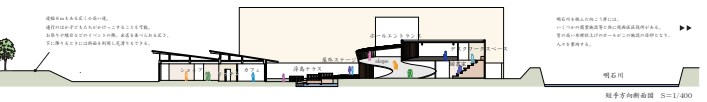
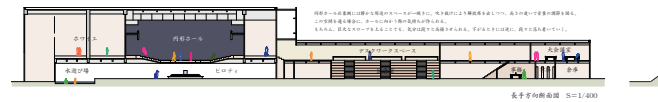
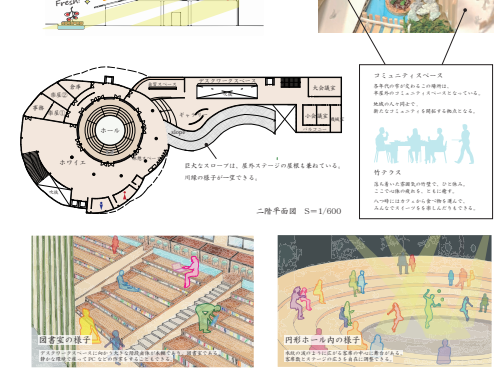
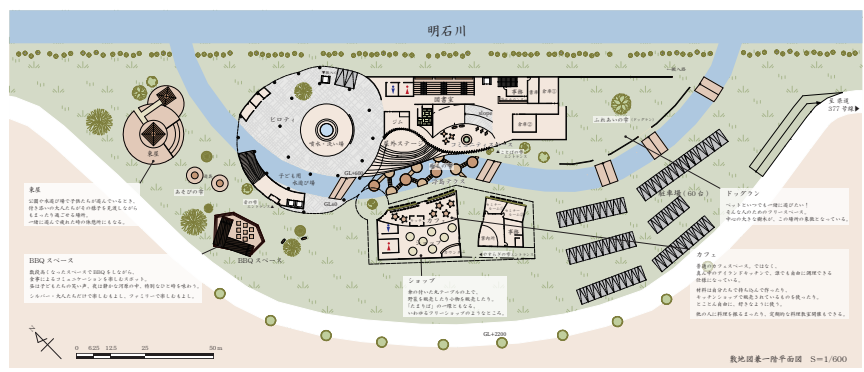
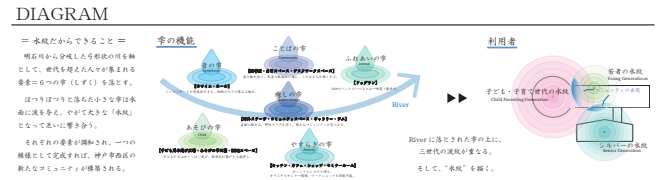
敷地所在地: 兵庫県神戸市西区役所
 種別: 30代後半棟上げ
 建築面積: 2988.01㎡
 延床面積: 4628.00㎡
 竣工年: 計画立案
 完成/完成時期: 2021/05

ふらりばの建築

兵庫県政府の「ふらりば」は、この地域をとりつつ、地域の響きや可能性を見出し、暮らしに寄り添い、暮らしの質を向上させることを目指す。この建築は、地域の歴史や文化を継承しながら、新しいコミュニティを創出する。

CONCEPT

香家の学でできた「水紋」上で、溢れた人々がどこまで自由に暮らすことを。暮らせることもここにあれば可能になる。水面には、日々違った響きとされ、様々な水紋の波が揺蕩う。岸との調和をとり、水を基調とした建物内で使用のせせらびや鳥の声、ヒアノの音色に響きあう暮らしの場を創出する。工業地帯に地域活性化の可能性を秘めた全世代対象の居場所がここに誕生する。



日本書紀の中に、「645年の大化の改新の時に、畿内の西の端を赤石の櫛淵(あかしのくしぶち=今の明石あたり)に定めた」との内容が書かれている。近畿(畿内)の入り口に位置する明石の名がついた明石川。計画の場は、移転が予定されている現神戸市西区役所の南約300mの明石川とその脇の支流。それらに挟まれた「浮島」が計画案だ。移転される区役所の方は行政機能の一部存続の支所として活かし、支所以外の空きスペースについて地域での利活用を行えるよう「たまりばプロジェクト」として整備を予定している。このたまりばプロジェクトとの連携や活用の提案も欲しかったが今回は触れないでおこう。

計画は、住民主体の地域活動とし、工業地帯に地域活性の可能性を秘めた全世代対象の居場所を提案している。都市公園型地域コミュニティセンター「水紋」は、いくつかの(この案では雫と称して6つ)人のあつまりが波紋のように広がる。結果、小さなコミュニティ(雫)が連鎖し、多様な世代のコミュニティが生まれる。

この案は、建築のつくり込みがうまい。まず、カーブした「平面」がチャミングに見える。ゆったりと流れる川をイメージさせる形で、人の

動線までもゆったり流れるように見える。「断面」も、そのスケール感が表現された上、採光上の取込みや写り込みにまで考えられている。建築物(建築の表現)になっている。建築の表情としての木材を多用した意匠を見せるのに一番気になる空間、すなわち、多いかぶさる垂木を木材とし注目させたのも、その効果は抜群だった。次に、既存の周辺環境の取込み。南にある土手の断面にも目が行き、周りの環境もよく読み込んで(降りるときは芝滑りなど)。

計画に無理がないのは、敷地の周辺やその高さをうまく利用したことだと思える。今時の心配の防災については、やや課題が残るが。

贅沢をいえば、6つの雫の関連性をよりわかりやすく説明しても良かったのではないかと。唐突に6つの雫はわかりにくい。利用者の動きがよりよく見える繋ぎのようなものが欲しい。そこから、空間と世代の関係へのプロセスの中、多様な世代のいきいきしたコミュニティ空間を生むといったような。

そんなことより、前述の「建築」の表現は見事であった。第9回優勝の本校は、強豪校といえるようになった。準優勝おめでとう。(森崎)